

透析医のひとりごと

「ひとりごとのついでに漢方薬」

湯浅保子

新潟にきて半世紀。透析黎明期から多くのスタッフ、患者と夢中で過ごしてきました。長期生存者（透析歴 30～40 年以上）の精神的、身体的強さは、常に尊敬の念を抱かせます。アクセス、血圧、貧血、MBD などの問題を、目覚ましく進化していく治療で改善して通ってこられる。

治療法が次から次へと開発されていく！ と感ずるのも、長期だからでしょうか。そのときの最善の治療法を、あまねく教えていただけてきました。食事制限の緩和、リハビリテーションも、慎重ではあっても、受け入れてくださいます。また、スタッフの根気強い働きかけは、実に巧みになされています。今は導入後の患者さんを、主に診るようになりました。安定するまでの期間のつらさを、少しでも軽くできればと念じています。腎不全患者は、他疾患も多くあり、他科の先生の助けをずいぶんとお願いし、長期にわたり診ていただいています。保存期に心肥大が軽減しているといいなと思いますが、SGLT2 阻害薬の助けも借りて、ずいぶんと軽減されることが期待されます。

透析でまず実感されるのは、除水の効果でしょうか。浸透圧と、ECUM と、少し長くすることが大切と考えます。この頃は、腹水はあまりみませんが、胸水をコントロールするのは難しいです。水を動かそうと考え、漢方の“利水”剤にも頼ってきました。まず、五苓散でしょうか。脳外科やめまいにもよく使われています。茯苓、猪苓、沢瀉（白、蒼）朮などもあります。水だけを動かして、本来あるべきところに戻すと解釈されています。ノロのような、消化管に水がどっと引き込まれるようなときにも、五苓散を服用すると消化液がさーっと体内に戻り落ち着かれます。さて、胸水が減ってくれば浸出液だと思いますが、透析で水の出入りを繰り返すと、目で分かるほどは引きません。だんだん濃縮していくようです。心不全の除水には利水剤の効き目はありがたいです。利水効果は朮などが入っている人參湯などにも期待されます。ノロに罹ったときは人參で温まってきましたし、食欲改善効果が良いのも、これも利水が関与しているかもしれません。同じように思っていたのですが、人參養榮湯は温めて元気になり、遠志も入っているため、少し記憶力が良くなる可能性もあります。気が強くなる人もいます。イライラしていたり、怒りっぽくなる気配があったらお休みを。

また、心不全では五苓散ではなく、木防已湯を飲んでいただいたら、それまで血圧が 120 mmHg になると耳鳴りがして除水が進まなかったのに、140 mmHg 前後で安定し除水も進むようになりました。どうしても飲んでもらいたく、一日分を 100 mL ほどのぬるま湯に溶き、2～3 回に分けて飲んでいただきました。この効き目はまだ理解できていません。石膏に利水効果ありと。不思議ですね。

利水ばかりでなく、漢方薬にはずいぶん助けられています。葛根湯、六君子湯、大建中湯、そして芍薬甘草湯は、先生方もよくお使いでしょう。芍薬甘草湯は筋肉のすべてに効きます。ですから、尿管結石にも腰のツッパリ感にも、なで肩の女兒の首が筋肉拘縮のため唾液が飲み込めず、ダラダラと垂らしたまま駆けこんできたことがあります。含んですぐに飲み込みができました。たった一例です。なぜそう思ったのか。芍薬甘草湯が即効で効きました。患者は唾液すら飲めず、耳鼻科、整形外科も受診したと話していました。よく効いて良かったです。脇にそれました。

他に著効を感じるものをあげてみましょう。食道裂孔ヘルニアに茯苓飲、なぜかお年寄りで胃からこみあげて座薬も効かない方がいましたが、茯苓飲でその後ずっと落ち着いておられます。血の巡りには当帰四逆加呉茱萸生姜湯。真っ白だった指がジンジンするほど温まりました。毛細血管の巡りには、柱枝で温めます。血圧に、精神的または交感神経が関与している例もありますが、即 β 遮断剤のつかえない症例もあります。釣藤散は脳血管障害で赤ら顔の高血圧の方に、不安がうまく出せない血圧不安定例には半夏厚朴湯がよく効いています。腹痛のない便秘には桂枝加芍薬大黄湯（アントラキノン）があります。清心蓮子飲をVURの症例で血尿があって飲んでいただいたら、透析導入後6年でしたが尿量が増えました。ご家族もびっくりし、感染も少なくなりました。

除水と利水で、水分除去をさらに効率良く図っていきたくと念じています。Evidenceが少ないので、慎重に診ていく必要があります。ただ、甘草による低カリウム血症は幸いにしておきていません。最も注意するのは肺線維症です。咳に気を付け、聴診、胸部X-pを時々調べます。山梔子の静脈硬化も知られてきました。腹痛が出ます。症に合わないからともいわれますが、まず、対症的に短期間飲んでいただくのが良いようです。

漢方薬の多くは植物です。植物の賢さ、したたかさがかなり解明されてきているようです。お互い連絡しあって（会話とさえ表現されてきました）、侵入者が入ってきたことを教えあい、葉っぱに有害物質をつくらせ、対抗策を講じるそうです。地中の微生物も広がりにくい根を助けて、より遠くの木にさらにネットワークを広げ、情報を共有するとも。また先日、鳥の言葉を解明している若者の話を放送でみました。少なからずお互いに会話が可能になるのでしょうか。植物を育てていて、たった1回の水やりを間違えて枯らしてしまった経験は、皆様少なからずお持ちでしょう。そのたび、人間のほうがずっと丈夫だと嘆いていたのは、透析という治療に長い間助けられてきたためでしょうか。植物を育てるときに少しでも環境に良くあれと、草を抜かずに地際で切ったりしています。耕さなくても根が深く張っていけば、おのずと空気の通りが良くなるようです。年寄りでも植物を育てられると、いささかの老後の楽しみになると期待しています。

年を重ねていく生き方は、人それぞれ異なります。世の中の風潮、気性、周りの人の支援、いきがい、etc. それぞれが振り返ると、思うところはあるでしょう。少し歩みを緩めることも必要だったかもしれません。

信楽園病院附属有明診療所（新潟県）